

アイソスの
回文かるた

ぎもん
さんもぎ

き

き



first message from ISOS

mindmi

*回文=上から読んでも下から読んでも同音の文章。



疑問 3 模擬

さん

この世には数字の決め事というのがあります。古今東西、この数字の呪縛から逃れることはできません。7はラッキー。4は不吉。そして、「3回目はダメよ」。

実例をあげましょう。

BS5750-1/-2/-3からISO9001/2/3へ、BS7750からISO14001へ—英国規格協会 (BSI) は自国の国家規格をISO始まって以来の2大ヒット商品へ格上げすることに成功しました。3回目の格上げを狙って、労働安全衛生のマネジメントシステム規格もISOに提案しましたが、受け入れてもらえませんでした。

サッカーでは、イエローカードが3枚たまると、レッドカードになり、その選手は退場させられます。審査登録機関・建材試験センターは、審査員に対してこのシステムを導入しました。お客さんから「あの審査員はひどい」というクレームが出ると、その当事者にイエローカードが出されます。このイエローカードが3枚たまると、その審査員は同機関から放出されるのです。ただ、A機関から追い出された審査員が、今度はB機関で採用されて、再び審査を始めることがあります。このような審査員のことを、本誌では「ゾンビ審査員」と呼んでいます。

審査登録制度の世界でも「3回目はダメよ」の原則が生きています。この制度は、日本の認定機関である通称 JAB (日本適合性認定協会) が審査登録機関を認定し、認定された審査登録機関が組織を審査して、登録証を発行するという仕組みになっています。JABは認定基準に則って、審査登録機関を認定するのですが、実は、この認定基準に載っていない不文律があります (内緒ですが)。審査登録機関は本審査の前に予備審査を実施する場合がありますが、この予備審査を3回以上やっていると、認定審査員の顔が曇るのです。認定基準の中には、予備審査についての記述はありません。ですから、3回以上の予備審査に対して、「そこまでやると、コンサルタントの模擬審査と変わらないじゃないか」とは言えません。言いたいけど、言えない。そこで認定審査員は、壁に向かって、こうつぶやくのです。

「疑問、3 模擬」